

	年		組		番		名前	
--	---	--	---	--	---	--	----	--

教材 1-C-(1) 古代から中世までの政治の様子

次の(ア)～(セ)の説明はどの時代のものであるかを、【表】の中の①～⑨から選び、番号で答えなさい。

【表】

① 縄文 <small>じょうもん</small>	② 弥生 <small>やよい</small>	③ 古墳 <small>こふん</small>	④ 飛鳥 <small>あすか</small>	⑤ 奈良 <small>なら</small>	⑥ 平安 <small>へいあん</small>	⑦ 鎌倉 <small>かまくら</small>	⑧ 南北朝 <small>なんぼくちよう</small>	⑨ 室町 <small>むろまち</small>
------------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	---------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-----------------------------

【政治の様子】

- (ア) 一族の長は太政大臣となり一族を朝廷の高い役職や国司につけた。
- (イ) 位を幼い皇子にゆずって上皇となつてからも、摂政や関白を押さえて政治を行続けた。
- (ウ) 大王を中心に、豪族は先祖を共通にする氏という集団をつくり、代々決まった仕事で朝廷に仕えた。
- (エ) 天皇であるおばを助け、摂政となり天皇を中心とする国家を作ろうとした。
- (オ) 将軍が直接支配する勢力は少なく、財政の基礎も弱かったので、太政大臣になるなど朝廷の権威も身につけた。
- (カ) 天皇を中心とした新しい政治を目指したが、少ない恩賞に対して武士が不満を持った。
- (キ) 中央には侍所・問注所・政所を設け、地方には守護と地頭を配置して支配を強めた。
- (ク) 律令に基づいて政治を行う律令国家をつくるために、大宝律令を定めた。
- (ケ) 仏教は国家を守り、政治を安定させる力を持つものと考えられ、地方に国分寺・国分尼寺が建てられた。
- (コ) ゆるみ始めた律令政治を立て直すため、都を京都に移し、地方の国司の不正を厳しく取り締まった。
- (サ) 娘を天皇のきさきとし、その子を天皇として、自分は摂政、関白という職について政治を動かした。
- (シ) 戦国大名は城を築いて城下町をつくり、領国支配のため分国法という法を定めた大名もいた。
- (ス) 力の強いむらは力の弱いむらに従えて、くにとよばれる政治的にまとまりをもった小国となった。
- (セ) 京に六波羅探題をおいて、朝廷を監視し、西日本の御家人を統制した。

年 組 番 名前

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)

(カ)	(キ)	(ク)	(ケ)	(コ)

(サ)	(シ)	(ス)	(セ)